

平成27年度第4回COCフォーラム

大学と地域コミュニティの 遠隔連携

参加
無料

定員
90名

〈当日受付〉
〈先着順〉

2016年2月29日(月)

13:00～15:30 〈12:30～開場〉

グランフロント大阪北館 タワーB 10階
ナレッジキャピタル カンファレンスルーム
タワーB RoomB05+06

プログラム

1. 開会の挨拶

大阪市立大学副学長 宮野 道雄

2. 事例報告

(1) 奈良県十津川村の事例報告①

「共働する木域学 — (1)文化資源 (2)木造シェルターハウス」

大阪市立大学文学研究科教授 中川 眞、工学研究科教授 横山 俊祐

(2) 奈良県十津川村の事例報告②

「紀伊半島大水害の復興から地域創生へ ～大学との連携～」

十津川村役場地域創生推進課長 鎌塚 康史

(3) 岩手県普代村の事例報告

「私たちの神楽へ — 鶺鴒神楽を支援する遠隔地の大学」(予定)

追手門学院大学地域創造学部教授 橋本 裕之

(4) 和歌山県新宮市の事例報告

「地域福利から中山間地域再生に関する大阪市立大学の取組みと地域との連携」

大阪市立大学都市研究プラザ教授 水内 俊雄

(5) 和歌山県の事例報告

「和歌山のまちづくりにおける行政と民間、大学との連携事例について」

和歌山県庁県土整備部都市住宅局長 中西 達彦

3. パネルディスカッション「地方創生と大学」

パネリスト: 中川 眞 (大阪市立大学教授)

横山 俊祐 (大阪市立大学教授)

鎌塚 康史 (十津川村役場地域創生推進課長)

橋本 裕之 (追手門学院大学教授)

水内 俊雄 (大阪市立大学教授)

中西 達彦 (和歌山県庁都市住宅局長)

コーディネーター: 長尾 謙吉 (大阪市立大学経済学研究科教授)

大学と地域コミュニティの遠隔連携

都市にある大学と遠隔地域コミュニティとは、その絶対的な距離のため、相互の関係を継続していくことが難しく、一時的な関わり合いで終わってしまう場合が多い。しかし、私たちの社会は人口縮小の段階に入り、都市と地方を二元的に捉えるのではなく、共通の課題をもつものとして考えるとき、両者の関係は重要である。過疎は遠隔地域だけではなく、都市内部の空洞化現象としても現れてきている。つまり私たちは様々な情報や対策を共有した方がいいのである。

とはいえ、都市と地方には固有の問題も存在する。地方には魅力的な伝統や文化、知識・知恵、産業などが存在しているが、その維持に苦しんでいる。多面的な文化装置を開発してきた都市の知恵で、それらの廃絶を食い止めることはできないだろうか？そこで大学が果たせる役割はいったい何か。お互いに見つめ直し、大学と地域コミュニティが連携を保つ意味、将来の見取り図について考えてみたい。

本フォーラムでは、深刻な過疎に直面している奈良県十津川村、2011年の東日本大震災からの復興に努力している岩手県普代村、行政、民間、大学の豊かな連携事例をもつ和歌山県の各事例報告とパネルディスカッションによって、都市と遠隔地域の協働のための効果的な方策を探ってきたい。

■パネリスト・ファシリテータープロフィール



中川 眞

社会包摂型アーツマネジメントが専門分野である。日本およびアジア地域における音楽・芸能の調査・活性化に取り組んでいる。十津川村との付き合いは 35 年に及び、毎年 8 月の盆踊りの時には学生と共に参加し、交流を深めている。大阪市立大学国際センター所長兼務。



横山 俊祐

専門は建築計画学。住まいづくりから、教育・福祉施設、地域づくりまで、都市から僻地までを研究対象とする。近年は、木材や木造建築への関わりが強く、木造校舎の設計に関する JISA3301 の全面改訂、木を視点として地域の総体を捉え直す木域学、十津川産材を活用した震災仮設用シェルターハウスの実験的建設などを行なっている。



鎌塚 康史

1986年近畿大学理工学部卒。同年大阪市内の建設会社に入社。1991年家庭の都合により十津川村へUターンし十津川村職員となる。技術職として20年間建設課で勤務し2011年4月総務課企画調整室長。同年9月紀伊半島大水害で被災し、翌年4月総務課復旧・復興対策室に室名変更。室長として水害からの復旧・復興に携わる。一定の進捗が得られた2015年4月から現職。十津川村の地域創生に取組中。



橋本 裕之

大学院卒業後、国立歴史民俗博物館、千葉大学文学部、盛岡大学文学部の教員を歴任後、2012年から追手門学院大学の教授に就任。専門は民俗学・演劇学。郷土芸能のプロデューサーとしても活躍。2011年の東日本大震災後は東北地方の民俗芸能とコミュニティの復興に尽力する。



水内 俊雄

和歌山市出身。政治・社会地理学、都市史・地域史研究、脱ホームレス支援のNPO研究等が専門分野である。都市大阪以外に、和歌山県も研究フィールドとしており、特に新宮市に関しては、中山間地域の再生や観光資源の発掘、水害からの復興支援、子育て支援等、地域福利を通じた地域再生に関する調査や教育を実践している。



中西 達彦

和歌山市出身。大学卒業後、和歌山県庁に入庁し、種々部署を経て、2002年以降は都市計画・まちづくりを担当する。2012年から和歌山市役所へ派遣されたが、2015年7月に和歌山県庁に帰任し、現在に至る。本フォーラムでは、地域のまちづくりに対して県が支援する事業や、市街地再開発事例等について報告します。



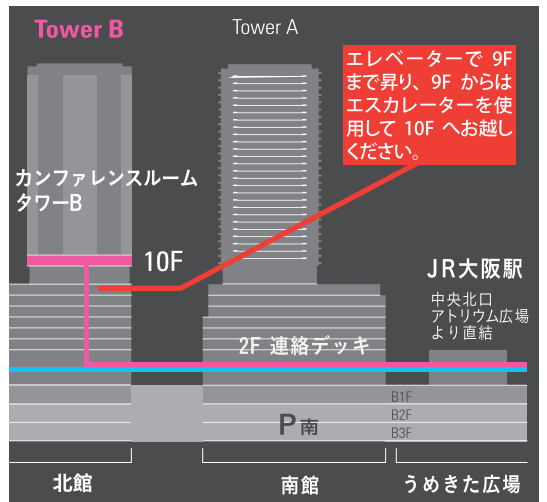
長尾 謙吉

経済地理学、都市・地域経済論が専門分野。空間のない「一点世界」の経済学と「所変われば品変わる」地理学への不満が、研究の動機づけ。地域格差の構図と雇用の地理的様相に関心を持ち、地域内と地域間の分業を探索。交通や情報通信手段の発達は、「距離の死」を導くのか？「遠隔連携」の可能性を探りたい。



© 西岡 潔

■会場アクセス



2F 連絡デッキより北館に入り、約 20m 進むと右側オフィスエントランス内にエレベーターホールがあります。そのエレベーターで9Fまで昇り、9Fからは、エレベーター降りて左側にあるエスカレーターを使用して10Fへお越しください。

■連絡先

大阪市立大学
プロジェクト・マネジメント・オフィス (略称 PMO)
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06-6605-2068
FAX 06-6605-3505
E-mail pmo-coc@ado.osaka-cu.ac.jp



■COC 事業について



平成 25 年度に、大阪市立大学・大阪府立大学が共同で採択された文部科学省の地(知)の拠点整備事業「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」では、大阪市・大阪府および周辺地域の課題解決やコミュニティ再生を担う実践的な人材の養成を目指して、大学と自治体が連携して、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献の取組みを行っています。